

略称で1Dとも呼ばれるワン・ダイレクションは、イギリスとアイルランド出身の20歳前後の5人のキューリーな男の子からなるグループ。今年のはじめに、「コミック・レリーフ」というイギリスの慈善団体が主催するチャリティの日、「レッド・ノーズ・デイ（赤い鼻の日）」に向けて、公式チャリティソングとして発表された1Dのこの曲が、世界63カ国のiTunesでたち

まち1位を獲得、売り上げは歴代アーティストを抜いて史上最高額を記録すると報じられた。そもそも「コミック・レリーフ」とは、1985年、脚本家リチャード・カーティスがエチオピアの飢饉問題をきっかけに設立した慈善団体の「レッド・ノーズ・デイ」とは、その団体が始めたチャリティ活動をするための日である。チャリティといっても堅苦しいものではなく、「お金を集めるために何か楽しいことをしよう」というモットーのもと、アーティストや企業やテレビ番組があればこれやの楽しいことを企画するのだが、主たるイベントは、みんなで赤い鼻をつけてバカ騒ぎをすること。その赤い鼻を買うお金がチャリティに回る。2011年は、日本円にしておよそ122億円の募金が集まったという。同じ年の日本の「24時間テレビ」での募金総額が、約20億円と報じられたことと比べると、この団体の活動の影響力の大きさがうかがわれる。

この曲をめぐる、こうしたすべての楽しさ、軽さ、屈託のなさ、メッセージ性皆無の慈善といった要素に、いまだきの幸福感とつながる要素を見る気がしたのである。例えば、私が日頃接している大学生の男女は、とても素直で、公然と「いいこと」をするのが大好きだ。私が大学生だったころには考えられなかったことである。当時は、背伸びをしようとしていたのか、もつと行動や考え方に屈折があり、わかりやすく「いいこと」をするのは恥ずかしいことだという空気があったように思う。ボランティアやチャリティ活動といった「いいこと」は、こつそりとやっこ格好いい、という暗黙の了解があった。むしろ偽善のポーズが好ましいとされるような時代においては、ボランティア活動のハードルは高かったのである。

ところが、21世紀に入り、「倫理」に気を遣い「社会貢献」をすることが、ファッションナブルを通り越してほぼ義務となったことも関係があるのか、はたまた不況期における自己啓発ブームの影響もあるのか、さらには、「ボランティア活動」が大学の単位として認定されるまでになったことも関係があるのか、今では、「いいこと」を公然と行うのが当たり前で、しかもそれは楽しく気持ちがいいことになっている。フェイスブックには、「被災地にボランティアに来てます」とコメントされた笑顔の写真が、「デイズ・ニールズ・トにいます」と書かれたVサインポーズの写真と同様に投稿されている。それに対して「友達」から「いいね！」ボタンが押されることで、世界とチャリングする幸福な気分がいつそう増幅されていく。

屈託なく、フットワーク軽く、素直に、いいことをして、喜ばれて、褒められて、いいね！気分を共有しよう。「みんなで素直にフィードバック」な時代の周波数に、ほかならぬワン・ダイレクションのチャリティソングが、びたりと波長を合わせている、そんなふうに聞こえてくるのである。

Richard Curtis
リチャード・カーティス



1 1985年7月、ロンドン郊外のウェンブリー・スタジアムで開催された20世紀最大のチャリティ・コンサート「ライヴ・エイド」。「バンド・エイド」の提唱者ボブ・ゲルドフが中心となり国とジャンルを超え多くのミュージシャンが参加。2 ティーンを中心とした人気のイ

ギリスのボーイズユニット、ワン・ダイレクション。3 昨秋、フィリップ・トレーシーのショーでフロント・ロウに座るレディー・ガガ。4 コミック・レリーフの創始者、脚本家のリチャード・カーティス。赤い付け鼻をつけてレッド・ノーズ・デイをアピール

慈善に対する意識変革によりチャリティソングにも変化が?

幸福感のひとつに、理想の世界とチューニングできた、という感覚がある。

それは例えば、大好きな人と会話をしているときに、ふいに訪れることがある。自分と相手の周波数がびたり一致して、永遠で完璧な世界に包まれるような感覚。映画を観たり、小説を読んだり、美しい服を着たり、美味しいものを食べたときにもこの感覚が訪れることがある。ある程度以上のエネルギーと時間とお金を注がなくてはいけないこともあって、ごくまれな幸運としてしか味わえない、特別な幸福感である。

その感覚に近いものを、もつと手軽に確実に味わわせてくれる対象がある。音楽である。現代では、音楽はすぐにダウンロードできて、どこにでも持ち歩くことが可能になった。気分とチューニングできそうな世界を次から次へと探して、いつでもひとりその世界に没頭することができる。幸福感がさほど大きくはないとしても、それに近い満足を味わうことができる。

逆に、ヒットしている音楽の幾つかをピックアップしてみると、人々がどんな幸福感に波長を合わせたいと望んでいるのか、その一端をうかがい知れることもできる。価値観がかくも多様になっているので、ヒット曲といつてもさまざまなのだが、例えば、現代のある一面を象徴しているのではないかと感じた最近の曲に、ワン・ダイレクションの「ワン・ウェイ・オア・アナザー」がある。



LIVE AID
ライヴ・エイド

Richesse Oblige

リシェ・オブリージュの精神

Vol.4

【音楽とチャリティ】

Music and Charity

社会に階級が存在した時代、アッパークラスには「ノーブレス・オブリージュ」が課せられていました。クラス社会が（表向きは）なくなった現在、その自己犠牲の精神は富裕層に引き継がれています。今回はすっかり私たちに身近なものとなった「音楽とチャリティ」の関係について考察します。

Text : KAORI NAKANO Realization : KAZUHIRO NONAKA

文／中野香織

中野香織
Kaori Nakano

なかの・かおり ●エッセイスト、服飾史家。過去2000年分のファッション史から最新モード事情まで、幅広い視野から研究、執筆、レクチャーを行っている。東京大学大学院修了、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家。2008年より、明治大学国際日本学部 特任教授を務めている。中野香織ブログ /http://nakanokaori.cocolog-nifty.com/



Lady Gaga
レディー・ガガ



One Direction
ワン・ダイレクション

バンド・エイドから始まった
チャリティ音楽というジャンル

思い起こせば、チャリティ音楽というものがジャンルを形成し始めたのは、ほかならぬ私が大学生のころだった。「いいこと」をするのは恥ずかしいことだという空気があった、と書いた、まさしくその時代だったのである。

始まりは、1984年、イギリスのアーティストが勢揃いして結成した「バンド・エイド」による、「ドゥー・ゼイ・ノウ・イツ・クリスマス？」だった。エチオピアの飢饉をテレビで知ったブームタウン・ラッツのポップ・ゲルドフが、ミュージシャン仲間を声をかけたところ賛同者が増え、ポール・ヤング、カルチャー・クラブ、フィル・コリンズ、ワム！、U2、ポール・マッカートニーなど錚々たる顔ぶれが集まった。ゲルドフとミッジ・ユーロ作のこの曲は、発売もなく全英ヒットチャート1位になる。

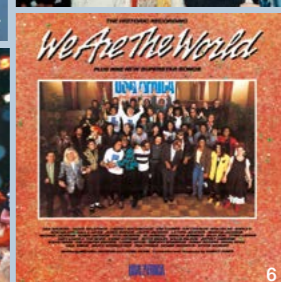
このユニットに刺激を受け、翌年、USA・フォー・アフリカが結成される。マイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが曲を書き上げ、クインシー・ジョーンズのプロデュースのもとに録音された。ステイヴ・ウィンガー、ビリー・ジョエル、ブルース・スプリングス、ティーン・ダイアナ・ロス、レイ・チャールズなどの超大物が45人も参加するとあって、ちよつとした興奮と共に社会現象となった。歌詞はチャリティ精神の王道をいく、ベタベタな善意の呼びかけである。「今こそ世界がひとつになるべき 命のために手を貸そう もう知らないふりなんてできない 誰かがどこかで変化を起こさなければ 僕らはみんな神の大きな家族の



Dionne Warwick, Stevie Wonder, Quincy Jones
ディオンヌ・ワーウィック、スティーヴィー・ワンダー、クインシー・ジョーンズ



The Beatles
ザ・ビートルズ



USA for Africa
USA・フォー・アフリカ



BAND AID
バンド・エイド

5 アビーロード・スタジオで「Our World」の支度をするザ・ビートルズ。24か国で放送された世界規模のテレビショーだった。6 「We Are The World」のアルバムジャケット。世界の飢饉救済を訴えたこの企画の成功により「ライヴ・エイド」へとつながっていった。7 「愛のハーモニー」を歌ったディオンヌ・ワーウィック(右)と、ハーモニーに参加したステイヴ・ウィンガー(中央)。クインシー・ジョーンズと共にグラミー賞授賞式にて。8 「ライヴ・エイド」ファイナルでの盛り上がり。中央で1本のマイクに向かい歌っている3人は左からボノ、ポール・マッカートニー、フレディ・マーキュリーと超豪華！

ズらによって製作された。歌手だけでなく、ケヴィン・コスナー、ウーピー・ゴールドバーク、マイク・タイソンなど俳優やスポーツ選手などもコーラスに参加するオールスター版で、ここに至り、チャリティ音楽は、政治的なにおいもちらつく組織的なものになっていった。チャリティ音楽は、一つのシステム、一つのジャンルとして確立したといっている。

ノーブレス・オブリージュの対象から
リシエス・オブリージュの主体へ

ミュージシャンが慈善活動のリーダーシップを執る。そのような流れの集大成的な存在として頂点を極めたのが、U2のボノであろう。

85年に、エチオピア飢饉救援コンサート「ライヴ・エイド」に参加し、現地の孤児院でボランティア活動をしたのが始まり。自分の知名度と影響力をアフリカの貧困撲滅のために使おうと決意したボノは、音楽活動を通じてチャリティにとどまらず、各国のトップに会って協力を呼びかけたり、アフリカの経済を救うためのエシカルなファッションブランドを立ち上げたり、基金を設立したりと、実に多岐にわたって積極的に活動を続けている。その成果はめざましく、ノーベル平和賞の候補にも3度選ばれているほど。2008年には人道支援活動の功績を讃えられて、慶應義塾大学から名誉博士号(法学)も受けている。ちなみに、ニューヨーク大学から人文学の名誉博士号を授与したいとのオファーは、断つたようだ。娘のイヴが同大学の卒業生となることで、娘からスポットライトを奪うようなことはしたくないという父親としての配慮であるらしい。こうした「いいね」を誘う報道により、ボノのステータス



Lady Gaga
レディー・ガガ

9 国際赤十字をサポートする「ヴォイセス・ザッツ・ケア」をプロデュースした、デイヴィッド・フォスター(右)とリンダ・トンプソン(左)。10 東日本大震災からわずか3カ月後、支援のために来日したレディー・ガガ。ほかにもエイズ撲滅、同性愛者支援など幅広い慈善活動を行う。11 レディー・ガガがいじめ撲滅のために設立したのがボーン・ディス・ウェイ財団。この「ボーン・プレイヴ・パス」は若者が気軽に立ち寄り、話をする場所を提供する。12 今年の4月、メルケル独首相と対面したボノ。13 昨年10月、オランダ仏大統領からエリゼ宮にビル・ゲイツと共に招かれたボノ



Linda Thompson, David Foster
リンダ・トンプソン、デイヴィッド・フォスター



Bono, German Chancellor A.Merkel
ボノ、メルケル独首相



Bono, French President F.Hollande, Bill Gates
ボノ、オランダ仏大統領、ビル・ゲイツ

タスはいっそう高まり…というか、ボノはもはや権威となっている。

権威に近い存在に急速にのぼりつめたアーティストには、ほかにレディー・ガガがいるが、彼女も財団を設立し、慈善活動を自分の活動の大きな一つの軸としてとらえている。2011年の東日本大震災の直後、日本のために祈りをというプレスレットを販売して全額日本に寄付したり、多くの海外スターがキャンセルするなか来日したりという私たちに身近な慈善活動も記憶に新しい。

今や世界中の音楽業界は、チャリティに溢れ、チャリティ音楽は日常的にチューニングできる幸福のひとつになった。いいこととするって、気分いいじゃん。喜ばれて、褒められて、みんなハッピー。であれば、メッセージ抜きに、楽しもう。そんな発想の延長に、冒頭の可愛いボーイズユニット、ワン・ダイレクションがつかうていく。

元来、西洋において、音楽家は、富と権力をもつ人々によって庇護されていた。

16世紀のルネサンス時代には、富と権力をもつローマ・カトリック教会が、音楽家の多くを雇っていた。彼らは、ミサ曲などカトリック教会の典礼のための音楽を作った。また、宮廷に雇われた音楽家たちは、宮廷の行事や貴族の娯楽のための世俗的な音楽を書いた。18世紀、19世紀には、貴族や富裕な市民が、音楽家のパトロンとなった。特権階級が主催するサロンは、若手作曲家の登竜門的な役割も果たしていた。つまり音楽家は、王侯貴族や特権階級が庇護し、育てるといって、いわばノーブレス・オブリージュの対象であった。

そして今、富と地位を獲得したミュージシャンが、社会貢献のための音頭を取る。「ロックな」姿勢を貫きながらも人々がチューニングできる幸せな世界を、脳内に響く音楽においても、現実世界においても、生み出すために、リーダーシップを執る。いわば、リシエス・オブリージュの主体の側に回っているのだ。

5 KyoSone/Getty Images 6 Bank Archive/Getty Images 7 Ron Galella/WireImage 8 Dave Hogg/Getty Images 9 Ron Galella/WireImage 10 Jan Sisk/WireImage 11 Timothy Hertz/Getty Images 12 Getty Images 13 Arsene Anoudj/Getty Images